

# 2026年帯広市長選挙

## 子ども施策に関わる公開質問状への回答

2026年3月30日

認定NPO法人子どもと文化のひろば ぶれいおん・とかち  
理事長 久保美香

認定NPO法人子どもと文化のひろば ぶれいおん・とかちでは、4月に帯広市長選挙が行われることにあわせ、主に子ども施策について、立候補を表明している3名の皆さまがどのようなお考えかを知るために、3月11日に6問の公開質問状をお届けしました。

子どもの権利を守り促進することを目的とした「こども基本法」が2023年4月1日施行され、自治体は子どもの権利を尊重し、子どもに関わる政策の立案、実施、評価等に子どもの意見を聴き反映させる取り組みが義務付けられました。また現在、「第2期おびひろこども未来プラン改訂版」（以下、「こども未来プラン」）の議論が進んでいるところです。

ぶれいおん・とかちは、当地で50年以上続く団体として、常に子どもをまんなかに活動を続けている団体です。子どもや子育て中の親、子どもに関わる多くの人たちから、多くの声を聴く中で、子どもの権利や帯広市の子ども施策について、立候補者の皆さまがどのようなお考えであるか、強く関心を持っています。

また、立候補者の皆さまのお考えを広く市民に周知し、投票に際し判断材料を少しでも提供することで、若い世代の行政参加への意識醸成や投票に行こうと思えるよう、ご協力をお願いしたものです。

今回、立候補者の皆さまからいただいた回答をまとめましたので、公開いたします。

尚、回答内容の記載につきましては回答をいただいた順に掲載し、敬称略とさせていただきます。

### 本件に関するお問合せ

認定NPO法人子どもと文化のひろば ぶれいおん・とかち

〒080-2470 帯広市西20条南5丁目18-2

Tel&Fax 0155-36-0560 E-mail [info@play-on-tokachi.net](mailto:info@play-on-tokachi.net)

ホームページ <https://www.play-on-tokachi.net>

## 質問1. 子どもの権利についての周知・教育・研修について

子どもが権利の主体として自分らしく生きることができ、また自身や他者の権利を大切にしながら行動できるようになるためには、子どもも大人も「子どもの権利」について理解し、共通認識を持つことが必要です。子どもの権利に関する周知、教育など、行政としてどう取り組むお考えでしょうか。具体的なアイデアがあればお聞かせください。

<必要である／必要でない／その他>

上野庸介	<p>&lt;必要である&gt;</p> <p>子どもが安心して成長し、自分らしく生きることができ、また自身や他者の権利を大切にしながら行動できるようになるためには、子どもも大人も「子どもの権利」について理解し、共通認識を持つことが必要です。子どもの権利に関する周知、教育など、行政としてどう取り組むお考えでしょうか。具体的なアイデアがあればお聞かせください。</p> <p>子どもが安心して成長し、自分らしく生きることができ、また自身や他者の権利を大切にしながら行動できるようになるためには、子どもも大人も「子どもの権利」について理解し、共通認識を持つことが必要です。子どもの権利に関する周知、教育など、行政としてどう取り組むお考えでしょうか。具体的なアイデアがあればお聞かせください。</p> <p>子ども家庭庁が掲げる「こどもまんなか社会」の実現に向けても、子どもを社会やまちづくりの中心に据え、子育てしやすい環境を整えることが求められています。そのためには、子どもの権利や尊厳が尊重される社会を地域全体で育てていくことが大切です。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校教育の中で子どもの権利や多様性について学ぶ機会の充実</li><li>・教職員や行政職員への研修の推進</li><li>・保護者や地域に向けた理解促進の取り組み</li></ul> <p>などを進め、子どもが自分の意見を持ち、それが尊重される社会づくりを進めていきます。</p>
柏尾哲哉	<p>&lt;必要である&gt;</p> <p>子どもの権利についての理解を深めることは、子どもが安心して成長できる社会の基盤です。</p> <p>学校教育における理解促進に加え、保護者や地域の大人も含めて学びを広げていくことが重要です。教職員や子ども支援に関わる人材の研修、地域活動の場での対話などを通じて、子どもが安心して意見を言える環境づくりを進めていく必要があります。</p> <p>特に「暮らしのえき」のような地域の拠点は、子どもと大人が日常的に関わり合う場であり、子どもの権利を実感として学べる場にもなります。こうした場を活用しながら、社会全体で子どもの権利を支えていく環境を広げていきたいと考えています。</p>
米沢則寿	<p>&lt;必要である&gt;</p> <p>大人に加え、子ども自身が自らの権利について知り、理解を深めることが大切です。</p> <p>このため、帯広市では、小・中学校で基本的人権や子どもの権利について学ぶ機会を設け、教員への研修などにも取り組んでいます。</p> <p>また、学校以外でも、例えば、公立保育所の地域担当保育士が、短期大学や高校等へ出向き、子どもの権利の大切さについて講義を行うなどして、将来子育てや保育に関わる世代にも理解が広がるよう取り組んでいます。</p> <p>今後も、ニーズを踏まえ、関係機関と連携しながら、様々な機会をとらえて周知啓発に取り組んでまいります。</p>

## 質問2. 「子どもの権利条例」について

帯広市のすべての人に、子どもの権利について共通理解を広め、子どもの権利を保障するための制度・仕組みを整えるための子どもの権利に関する条例を制定すべきだと思いますか？その理由もお

聞かせください。

<制定すべき/制定の必要はない/その他>

上野庸介	<p>&lt;その他&gt; (制定について検討が必要)</p> <p>子どもが安心して成長し、地域の中で大切に育まれる社会をつくるためには、子どもに関する施策を総合的に進めていくことが重要です。</p> <p>その中で、子どもの権利を尊重する視点は重要ですが、条例については「権利」の部分だけにとどまらず、子育て支援、教育、地域での見守り、若者の成長支援なども含めた形で、子どもに関する施策全体を考えていく必要があると考えています。</p> <p>そのため、子どもの権利の尊重を大切にしながら、帯広の実情を踏まえ、子ども・子育て政策を総合的に進めるための「こども条例」のあり方について、市民や関係者の意見を聞きながら検討していきたいと考えています。</p>
柏尾哲哉	<p>&lt;制定すべき&gt;</p> <p>子どもの権利を社会全体で尊重していくという考え方には強く賛同します。子どもは守られるべき存在であると同時に、社会の一員として尊重される主体でもあります。</p> <p>子どもが安心して育ち、自分の考えを持ち、地域社会の中で成長していくためには、その前提となる価値を社会全体で共有することが重要であり、その意味で条例の制定には意義があると考えます。</p> <p>一方で、条例は理念にとどまるものではなく、「居場所」と「役割」の中で実感できるものである必要があります。例えば、「暮らしのえき」での子どもの参加や、「ぐるっとコイン」を通じた地域活動など、日常の中で子どもの主体性が発揮される仕組みと一体で進めていくことが重要だと考えています。</p>
米沢則寿	<p>&lt;その他&gt;</p> <p>帯広市では、「第2期おびひろこども未来プラン」の基本施策に、子どもの権利の尊重を掲げて、啓発活動の推進や相談体制の確保などの取り組みを進めています。</p> <p>今後も、子どもの権利条約の理念はもとより、こども基本法や子ども大綱などを踏まえ、すべての子どもが一人の人間として自分らしく個性豊かに生きる権利が尊重され、安全で不安なく暮らせる環境づくりにしっかりと取り組んでまいります。</p>

### 質問3. 子どもの声を聴く、子ども参画について

こども未来プランに「すべてのこどもの幸せを第一に考え、こどもの意見を大切にしながら、こどもの最善の利益を最大限に尊重する」とあります。具体的にこどもの意見表明機会の確保や子ども参画の在り方について、お考えをお聞かせください。

また、意見を表明することが難しい状況にある多様な子ども（例えば、外国ルーツの子ども、障がいがある子ども、学校に通うことが困難な子ども等）についても考慮し、意見を聴く取り組みは必要だと思いますか？

<必要である/必要ではない/どちらともいえない>

上野庸介	<p>&lt;必要である&gt;</p> <p>子どもは社会の大切な主体であり、まちづくりの当事者でもあります。子どもたちの意見や考えを政策に反映する仕組みを整えることは、よりよい地域社会づくりにつながります。</p>
------	---

	<p>帯広の未来を担う子どもや若者が、自分たちのまちについて考え、意見を表明できる機会を広げることが重要です。</p> <p>そのため</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや若者の意見を聞く仕組みづくり</li> <li>・学校や地域での対話の場の充実</li> <li>・オンラインなど多様な意見表明の機会</li> <li>・若者がまちづくりについて議論し提案できる「若者議会」などの仕組みの検討などを進めていきます。</li> </ul> <p>また、さまざまな事情や背景を持つ子どもたちも含め、すべての子どもが意見を表明しやすい環境づくりを進め、誰一人取り残さない取り組みを進めていきます。</p>
柏尾哲哉	<p>&lt;必要である&gt;</p> <p>子どもに関わる政策は、当事者である子ども自身の声を聞くことから始めるべきだと考えます。</p> <p>学校での意見交換に加え、「暮らしのえき」や地域の活動の中で、子どもが日常的に意見を表現できる環境をつくることが重要です。また、「帯広型15分生活圏」の中でこうした場を身近に配置することで、より多くの子どもが参加しやすくなります。</p> <p>外国ルーツの子どもや障がいのある子ども、不登校の子どもなど、声を上げにくい子どもたちの意見が取り残されないような仕組みづくりも進めていきたいと考えています。</p>
米沢則寿	<p>&lt;必要である&gt;</p> <p>帯広市は、これまでも計画の策定や施策の推進にあたって、会議やアンケートなどを通じて子どもの意見を聴いてまいりました。</p> <p>とりわけ、「こども未来プラン」などの子どもに関する計画は、子どもや子育て家庭の意見を聴いて策定してきました。また、同プランの改定にあたって、フリースクールなどに通う子ども・若者と意見交換をしています。児童保育センターでは、毎年、利用児童にアンケートを実施し、子どもたちの声を参考に施設運営の改善に取り組んでいます。小中学校では、児童生徒の意見を聴いて校則を見直すなどしています。</p> <p>子どもの参画にあたっては、年齢や発達の程度、施策分野によって関係性が様々であり、施策の内容に応じた対応が必要と考えます。</p> <p>今後も、子どもの意見を大切にする姿勢で、取り組みを進めていく考えです。</p>

#### 質問4. 教育行政について

小・中学校での不登校の子ども数はここ数年増加しています。帯広でも令和6年度には小・中学校で413名（対前年+30名）が報告されています。

子どもたちの「学習権」を保障するために、本来学校はすべての子どもが安心して通える場所であればなりません。学校教育の変革が求められている今、学校がそのような場所となるために、学校教育を含む総合行政を掌る市長としてどうリーダーシップを発揮していかれますか？

（ご意見

）

上野庸介	<p>子どもたち一人ひとりが安心して学び、成長できる教育環境を整えることは、教育行政の重要な役割です。学力の向上だけでなく、子どもたちの個性や多様な可能性を伸ばし、地域の中で健やかに育つ環境を整えていくことが大切だと考えています。</p>
------	---

	<p>そのためには、学校・家庭・地域が連携しながら子どもたちを支える教育環境づくりを進めるとともに、教育現場を支える体制づくりが重要です。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した体験活動や探究的な学びの充実</li> <li>・ICTの活用などによる多様な学びの環境づくり</li> <li>・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門職の活用</li> <li>・教職員の負担軽減を図り、子どもと向き合う時間を確保する取り組み</li> <li>・十勝・帯広の農業や食、地域産業などの地域資源を活かした体験的な学びの推進</li> </ul> <p>などを進め、子どもたち一人ひとりの成長を支える教育環境を整えていきます。</p> <p>その上で、近年、不登校の子どもが増えていることは重要な課題です。すべての子どもが安心して学び、成長できる環境を整えることも教育行政の重要な役割です。</p> <p>学校は子どもたちにとって安心できる居場所であると同時に、多様な学びを受け止める場である必要があります。</p> <p>そのために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援センター等の充実</li> <li>・フリースクール等との連携</li> <li>・スクールカウンセラーや専門職の体制強化</li> <li>・子ども一人ひとりに寄り添った支援</li> </ul> <p>などを進め、学校だけで抱え込まず、地域や関係機関と連携した支援体制を強化していきます。</p> <p>また、不登校となった子どもたちへの支援体制については、そうした状況になってから初めて知るのではなく、それ以前の段階から子どもや保護者に分かりやすく情報を伝えていくことが重要です。</p> <p>さまざまな支援や学びの選択肢があることをあらかじめ知っておくことは、子どもや保護者の安心感にもつながると考えています。</p>
<p>柏尾哲哉</p>	<p>不登校の増加は、子どもたちが抱える多様な背景や社会の変化を反映した課題です。重要なのは、子どもが孤立せず、学びや社会とのつながりを持ち続けられることです。</p> <p>そのためには、学校だけでなく、「暮らしのえき」など地域の居場所も含めて、多様な学びと関係性の場をつくる必要があります。</p> <p>子どもが自分のペースで学び、関わり、成長できる環境を、教育委員会と連携しながら地域全体で支えていきたいと考えています。</p>
<p>米沢則寿</p>	<p>帯広市では、児童生徒が安心して学校に通える環境整備と多様な学びの選択肢の確保の両面から取り組みを進めています。</p> <p>安心して通える学校づくりに向けて、児童生徒の不安や悩み、困りごとの早期発見、早期対応のほか、日常的に相談できる体制づくりや、いじめ根絶に向けた取り組みに努めています。</p> <p>また、学校内外で、学びと居場所の多様な受け皿を確保するよう努めています。市内全校での「校内教育支援センター」の設置のほか、教育支援センター「ひろびろ」やオンラインを活用した「ひろびろチョイス」、民間フリースクールとの連携など、個々の状況やニーズに応じた多様な手立てをとっています。</p>

	<p>学校と家庭、地域が一体となって児童生徒を見守り育むことも大切です。今後も、地域総ぐるみで子どもたちの学びと成長を支え、地域の明るい未来につなげていきたいと考えています。</p>
--	---

## 質問5. 中高生・若者の居場所

帯広市には地域ごとの児童館がなく、中高生・若者たちが安心して自由に集える場所が少ない、という声があります。こども未来プランにおいても、居場所づくりはおおむね小学生までが対象となっており、具体的な施策がないのが現状です。行政として、中高生・若者の居場所をどう保障していくか、お考えをお聞かせください。

上野庸介	<p>中高生や若者が安心して集い、自由に活動できる居場所は、健全な成長や地域への愛着を育てる上で重要です。</p> <p>現在、帯広では中高生世代が安心して過ごせる場所が十分とは言えないという声もあります。若者が地域の中で安心して過ごし、挑戦できる環境づくりが必要です。</p> <p>そのため</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生や若者が利用しやすい居場所づくり</li> <li>・公共施設の柔軟な活用</li> <li>・地域団体や民間との連携</li> <li>・若者主体の活動支援</li> </ul> <p>などを進め、若者が地域とつながりながら成長できる環境を整えていきます。</p>
柏尾哲哉	<p>中高生や若者の居場所は、帯広における重要な課題です。</p> <p>私は、「暮らしのえき」を中心とした分散型の居場所ネットワークを整備するとともに、中心市街地である「帯広食べ歩きまち」を、若者にとっても魅力ある居場所として再生していきたいと考えています。</p> <p>さらに、両者をつなぐ交通や移動の仕組みを整えることで、多様な居場所とそこへのアクセスが保障される環境をつくっていきます。</p> <p>また、「ぐるっとコイン」などを活用しながら、若者が地域活動に関わり、自分なりの役割を持てる仕組みをつくることで、居場所と役割が循環する環境を整えていきます。</p> <p>こうした取り組みを通じて、若者が地域の中で居場所と役割を持ち、将来も帯広で暮らし続けたいと思える環境をつくっていききたいと考えています。</p>
米沢則寿	<p>中高生から、「市長への手紙」や計画策定のために意見を聴く場などで「居場所が欲しい」といった声が寄せられており、ニーズはあるものと承知しています。</p> <p>居場所づくりについては、目的や対象、効果のほか、運営の主体や方法、保護者の安心への配慮など、整理すべき課題があると捉えています。</p> <p>今後も、中高生や若者の声を丁寧に把握しながら、既存の公共施設を活用する可能性や事業者等との連携も含めて、居場所のあり方を検討していく考えです。</p>

## 質問6. 市内の民間団体との連携について

子どもの問題に関わらず、地域の活性化や社会課題の解決のためには、市民活動の活性化、民間団体の横のつながりや行政との連携が必要と考えますが、どのようにお考えでしょうか。

また、その推進のために、行政はどのような取り組みができるとお考えですか？

(ご意見

)

上野庸介	<p>子ども施策や地域課題の解決には、行政だけでなく、地域団体やNPO、企業など多様な主体との連携が不可欠です。</p> <p>地域の中には、子どもや若者のために活動している団体が多くあります。こうした活動を尊重し、行政と民間が協力して取り組みを進めていくことが重要です。</p> <p>そのため</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・民間団体との意見交換の機会の充実</li><li>・協働による事業の推進</li><li>・活動を支える仕組みづくり</li></ul> <p>などを進め、地域全体で子どもを支える環境づくりを進めていきます。</p> <p>また、その際には国の補助事業などの活用も検討し、民間団体の活動を支える取り組みも進めていきたいと考えています。</p>
柏尾哲哉	<p>子ども支援は、民間団体や市民の活動によって支えられています。行政は、それらの活動が力を発揮できる環境を整える役割を担うべきだと考えています。</p> <p>「暮らしのえき」などの地域拠点を通じて、日常的な連携の場をつくとともに、「ぐるっとコイン」などの仕組みにより活動と支援が循環する環境を整備していきます。</p> <p>帯広を、子どもを起点に、すべての世代が「居場所」と「役割」を持ちながら共に成長できるまちにしていきたいと考えています。</p>
米沢則寿	<p>地域の活性化や課題解決には、市民や団体、行政がそれぞれの役割を担い、互いに力を合わせて取り組む「協働」が欠かせません。</p> <p>帯広市は、「まちづくり基本条例」でそうした考えを明確にし、まちづくりへの参加機会の充実やわかりやすい情報発信などを行っています。</p> <p>また、団体の活動を支えるため、助成金のほか、協働事例の紹介などの情報発信、交流の場づくり、相談への助言などに幅広く取り組んでいます。</p> <p>今後も、市民や団体による地域課題への主体的な取り組みを支援し、力を合わせて、活力があり住みよいまちづくりを進めてまいります。</p>

## その他 寄せられた言葉

柏尾哲哉	<p>はじめに</p> <p>まず、私自身の子ども観と、まちづくりの基本的な考え方についてお伝えします。</p> <p>子どもは守られるべき存在です。しかし同時に、日々成長し、やがて大人となり、次の世代を支えていく存在でもあります。だからこそ社会は、子どもを守る対象としてだけでなく、一人の主体として尊重し、その成長を支えていくことが大切だと考えています。</p> <p>そしてもう一つ大切なのは、子どもが成長するだけでなく、大人や地域社会も子どもたちと共に成長していくことです。子どもと関わる中で大人も学び、地域も変わり、社会が少しずつ良くなっていく。そのような世代がつながりながら共に成長していく地域社会をつくるのが、これからのまちづくりの基盤になると考えています。</p> <p>私は、その実現のために「居場所」と「役割」という二つの視点が重要だと考えていま</p>
------	--

す。これは子どもに限らず、すべての市民に共通する考え方です。

まず「居場所」については、自宅に加え、地域の拠点である「暮らしのえき」、そして中心市街地である「帯広食べ歩きまち」という三層の居場所を持つことが重要だと考えています。これらを日常生活の中で行き来できる環境を整えることで、人と地域とのつながりを生み出していきます。私はこれを「帯広型15分生活圏構想」として実現していきたいと考えています。

次に「役割」については、子どもから高齢者まで、それぞれの世代や状況に応じて担える役割を持ち、地域の中で関わり続けられる仕組みをつくることが重要です。

この「居場所」と「役割」が循環することで、子どもも大人も地域も共に成長していく社会を実現できると考えています。私は、「暮らしのえき」や「15分生活圏」、そして地域内循環を生み出す「ぐるっとコイン」などの政策を通じて、そのような仕組みを帯広に実装していきたいと考えています。

以上